

令和7年 市長・市議会議員 年頭のごあいさつ



つがる市長
倉光 弘昭

新年おめでとうございます。市民の皆さま方には、すがすがしい新春を健やかに迎えたいと心からお喜び申し上げます。また、日頃より市政運営につきまして、特段のご理解とご協力を賜り、深く感謝申し上げます。

本市は今年、市制施行20周年という記念すべき節目を迎えます。これまでのあゆみを振り返り先人たちの業績に感謝するとともに、新たな未来に向かって飛躍する機会とするため、さまざまな記念事業を2カ年にわたって実施することとしています。

昨年は、記念ロゴマークの製作や庁舎などへのPRサインの掲出、大相撲つがる場所などの開催により、市民のさらなる一体感の醸成を図ってきました。また11月3日からスタートしたカウントダウンフォト事業では、多くの市民や市にゆかりのある方のご協力をいただきました。来る2月11日は伊藤鉦業アリーナつがるで記念式典を開催いた

しますが、大きな節目を市民の皆さまとともに祝うことができるところを大変うれしく思っています。令和7年度においても市民の皆さまの記憶に残るさまざまなイベントを開催していきますのでご期待ください。

昨年を振り返ると依然として世界情勢の不安定化、少子高齢化、エネルギー・物資の安定供給と価格の高騰、災害や気候変動問題への対応など将来的に市民の「日常生活」を脅かしかねない課題が山積みしている状況にあります。

元日には石川県能登半島を震源とするマグニチュード7.6の地震が発生し、震度7の激しい揺れを観測したほか、一時大津波警報が発表され、沿岸に津波が到達しました。このたびの能登半島地震では、多くの方々尊い命が失われ、家屋の倒壊など計り知れない被害が発生しました。また、9月には石川県をはじめ、秋田県や山形県にお

いて記録的な大雨となり、河川の氾濫や土砂崩れが相次ぎました。

本市においては令和4年に線状降水帯が発生し記録的な大雨を経験したことや、日本海に面している地理的状況などからも自然災害はいつ・どこで・どのタイミングで発生してもおかしくない状況にあります。そのため、避難所の迅速な設営と運営に関する訓練や物資の確保、千葉県柏市に続く北海道白老町との災害時相互応援協定締結などを通じて、防災対策の強化に努めてまいりました。

近年、大雨や猛暑の影響で、つがるブランド農産物であるメロンをはじめナガイモ、ゴボウなどの根菜類は、品質低下に加え収量が減少する年が続いていました。昨年度のメロンは玉の伸び、糖度も申し分ない仕上がりとなり、リンゴや根菜類も質・量とも順調に生育し、本市産の全国に誇れる高品質な農産物は市場関係者から高評価を得ています。令和6年産米の生産者概算金の目安額は主力3品種とも過去最高値となり、ようやく本来あるべき価格に近づいたことに安堵と喜びを感じたところです。

「ふるさと再構築」をスローガンに掲げ、市長に就任して以来、「人口減少・少子高齢化対策」「魅力ある農業の推進」並びに「子育て・健康づくり対策の充実」を重点課題と位置づけ、社会情勢の変化に柔軟に対応しつ

つ将来を見据えた実効性のあるまちづくりの実現に取り組んできました。任期最終年度となる令和6年度においても重点課題に対する取り組みを継続して実施し、移動販売事業や高齢者タクシー利用助成事業といった市民との協働のまちづくりによる新たな事業もスタートさせることができました。また、自転車乗車時のヘルメット着用が努力義務化されたことから、児童生徒の命を守る取り組みの一環として、令和7年度から小中学生自転車用ヘルメット購入費用を助成するための予算措置を行うところとします。

津軽自動車道柏浮田道路の整備や洋上風力発電事業の着手に伴い、本市は大きく変わろうとしています。

洋上風力発電事業は、本市にとって新たな雇用創出や地域経済の好循環といった波及効果に加え、発電事業者の協力の下で地域課題解決のための地域振興策が期待できることから、この機会を最大限生かし地元事業者が洋上風力産業に参入しやすい環境を整え、新産業の創出と市街地および農業集落における持続可能な活力の創出を図りたいと考えています。

結びに、本年がつがる市と皆さまにとりまして、夢と希望に満ちた、さらなる飛躍の年になりますよう心からお祈り申し上げます。新年の挨拶といたします。

謹賀新年



つがる市議会議長
木村 良博

新年明けましておめでとうございます。年頭にあたり、つがる市議会を代表して、市民の皆さまに謹んでごあいさつを申し上げます。

皆さまには、令和7年の初春を健やかに迎えられましたことをお慶び申し上げますとともに、日頃より市民の皆さまには、市政ならびに市議会に対し温かいご理解とご協力をいただきまして心より感謝申し上げます。

昨年を振り返りますと、2024年元旦に発生し震度7を観測した能登半島地震、さらに9月に発生した奥能登豪雨など各地域で記録的な大雨がもたらされ、その度重なる災害で家屋の倒壊、河川の氾濫、土砂崩れなどにより多くの命が失われ、甚大な被害が発生しました。災害の復旧復興は少しずつ進

んでいるものの、完全な復興には、まだ相当な時間がかかると思われます。いまだに被災された多くの方々が増え、避難生活を余儀なくされていることについて心からお見舞い申し上げます。

また、近年の気候は世界的にみましても予測をはるかに上回るような災害が多発し、甚大な被害が発生しています。

その異常気候への対策、備えるために姉妹都市の北海道白老町と「災害時相互応援に関する協定」を結び、災害時の応急復旧に必要な人的・物的の両面で迅速な支援が可能となり、防災体制がより強化され、両市民の安心安全の向上となりました。

経済においては、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻による戦争も長期化しており、エネ

ルギー市場と食糧市場に大きな影響を与え、世界的な物価の上昇となっております。

このような世界情勢の中で、エネルギーや食糧などの輸入に頼る我が国は、円安も相まって負の波及となり、物価の高騰が続き、私たちの生活は一層厳しさが増えています。

しかしながら、昨年の農作物は猛暑、大雨、台風などの目立つ被害もなく順調に生育し、おむね良好の作物となり安堵しております。特にコメに関しては、前年度のような米価下落を危惧していましたが、平成のコメ騒動以来の高値となり、大変喜ばしく思っています。

さて、本市は次世代を担う若者の人口流出や少子高齢化が進んでいることから、早期の対応が求められております。また、人口減少問題とともに「2025年問題」は、今日の

日本を支えてきた団塊の世代が後期高齢期に入ること、超高齢化社会を迎え、社会保障費の負担が増えることなどが問題視されています。

市議会においては、市民の皆さまが安心して暮らせるよう、議員一人一人が今まで以上に、より魅力ある街づくりのために、市民に求められているものを的

確に捉え、市政への意思を反映することが重要な責務であると認識し、市と連携を深めながら、このような問題を乗り越えるために最善の努力をしていく所存です。

そして、今年は市制施行20周年という節目を迎えます。これからますます多様化する行政需要に適切に対応しつつ、住民福祉の向上と新しい時代の要請に応える活力ある地域社会の実現を図っていかねければならないと思っております。つがる市の未来を担い、市民の信頼と負託に応えられるよう努力して参る所存でありますので、これまでと変わらぬご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

つがる市のさらなる発展のために、この市制施行20周年を契機として、豊かで潤いのあるつがる市を目指し、市民の皆さまが一致協力して街づくりに取り組まれることをご期待し、本年が皆さまにとって幸多き素晴らしい年となりますことを心より祈念いたしまして、年頭の挨拶といたします。